



2023年4月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年3月9日

上場会社名 サトウ食品株式会社
コード番号 2923 URL <https://www.satosyokuhin.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長
四半期報告書提出予定日 2023年3月14日
配当支払開始予定日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
TEL 025-275-1100

(百万円未満切捨て)

1. 2023年4月期第3四半期の連結業績(2022年5月1日～2023年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年4月期第3四半期	31,958	3.8	2,253	19.8	2,541	16.5	1,757	15.8
2022年4月期第3四半期	30,789		2,811	23.5	3,042	23.0	2,087	25.1

(注) 包括利益 2023年4月期第3四半期 1,819百万円 (6.4%) 2022年4月期第3四半期 1,944百万円 (9.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年4月期第3四半期	348.45	
2022年4月期第3四半期	413.84	

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を2022年4月期第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年4月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、売上高の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年4月期第3四半期	40,976	18,042	44.0
2022年4月期	36,345	16,475	45.3

(参考) 自己資本 2023年4月期第3四半期 18,042百万円 2022年4月期 16,475百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年4月期		0.00		50.00	50.00
2023年4月期		0.00			
2023年4月期(予想)				55.00	55.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

詳細は、本日発表の「配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2023年4月期の連結業績予想(2022年5月1日～2023年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	39,742	1.8	2,582	4.3	2,897	2.6	1,887	2.6	374.12

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年4月期3Q	5,075,500 株	2022年4月期	5,075,500 株
期末自己株式数	2023年4月期3Q	31,712 株	2022年4月期	31,687 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年4月期3Q	5,043,802 株	2022年4月期3Q	5,043,885 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項などについては、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
3. その他	9
(1) 役員の変動	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型ウイルスとの共存に向けた生活スタイルの浸透により社会経済活動は正常化しつつある一方で、ロシア・ウクライナ情勢が長期化に伴う資源・エネルギー価格の高騰や、世界的な金融引締めによる為替相場の変動等が景気を下押しするリスクを抱えており、先行き不透明な状態が続いております。また、消費者物価は、依然として上昇基調にあり、様々な消費財で値上げが実施されているなかで、消費者の節約志向の高まりを受ける食料品を扱う業界は、今後も厳しい経営環境が続いていくものとみられます。

このような状況のもと、当社グループは引き続き、安全・安心に重点をおいた包装米飯及び包装餅製品の安定供給、並びに適正価格での販売に努めることを基本に事業活動を推進してまいりました。具体的には、おいしさの追求はもちろんのこと、消費者の消費動向を捉えながら、拡大する商品需要に対応可能な生産体制の整備を進めるとともに、生活スタイルの変化や消費者ニーズの多様化といった市場変化に対応すべく、「米食回帰・健康維持・多様化をキーワードとした新たな食の創造」を引続き提案し、全社一体となった営業活動に取り組むことで業績の拡大を図ってまいりました。また、包装米飯及び包装餅の通年需要の喚起を目的とした広告宣伝を継続的に実施する事で、喫食機会とブランド認知の拡大に努めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、包装米飯及び包装餅製品ともに主力製品を中心に堅調に推移し、319億58百万円（前年同期比3.8%増）となりました。

利益面につきましては、販売の増加と生産性向上により収益性の改善に努めましたが、各種調達価格等の高騰を要因として、営業利益は22億53百万円（前年同期比19.8%減）、経常利益は25億41百万円（前年同期比16.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は17億57百万円（前年同期比15.8%減）と、いずれも前年を下回る結果となりました。

また、当社グループは主力製品である包装餅が季節商品（特に鏡餅）であり、その販売が年末に集中するため、当第3四半期連結会計期間の売上高及び利益が他の四半期連結会計期間に比べ著しく増加する傾向があります。

製品分類別の販売動向

当社グループは、食品事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載を省略しておりますが、製品分類別における販売の動向は以下のとおりであります。

(包装米飯製品)

包装米飯製品は、近年の新型ウイルス禍による在宅時間の増加といった生活スタイルの変化に伴い、簡便・時短ニーズが高まったことで、家庭内での需要が拡大し、ストック及びレンジ調理が可能なパックごはんの販売は堅調に推移しております。また、世界的な穀物の価格高騰を受け、価格が比較的安定しているコメの存在感が高まり、米食に回帰する動きが活発化しております。

これらの消費動向の変化を背景に、まとめ買いニーズへの対応や食物繊維で始めるおいしい新健康生活の提案など様々な販売促進活動により、包装米飯製品の「家庭のご飯に代わる」日常食化に引続き取り組んでまいりました。

また、さらなる需要喚起を目的に当社独自の厚釜炊き製法をアピールするテレビCM『サトウのごはん「ふっくら釜炊き編」』、「サトウのごはん8食パック」の発売に合わせたテレビCM『サトウのごはん「多幸（炊こう）感」』を引続き全国放映いたしました。

これらの取り組みとともに、1988年の発売当初より「炊きたてのおいしさ」を目指してきた「サトウのごはん」がより多くの食卓に受け入れられ、パックごはん市場で確固たるブランドを確立したこと、さらに、電子レンジ調理などの簡便、時短調理等、家庭内での調理ニーズが多様化する中で、パックごはんが備蓄食ではなく日常食というポジションに変わってきていることも、売上高が堅調に推移した要因として捉えております。

その結果、包装米飯製品の売上高は175億28百万円（前年同期比8.4%増）となりました。

なお、当社は、約45億円を投じて当社のパックごはん専用工場である聖籠ファクトリー（新潟県北蒲原郡聖籠町）に新たな生産ラインを増設し、2024年の稼働時には年間4億食の生産能力を確保することで、将来的な需要拡大に対応してまいります。

(包装餅製品)

包装餅製品では、引続き通年需要の喚起に向けたテレビCMや企画商品の販売に積極的に取り組んでおります。

まず、これまで「プレミアムライン」、「レギュラーライン」、「トライアルライン」の3つにセグメンテーションしていた切り餅の商品ラインナップに、普段の生活や行動の範囲内で手を出せる高級品、いわゆる“プチ贅沢”需要にお応えする「プライムライン」を追加し、「サトウの切り餅特別栽培米新潟県産こがねもち」を

2022年9月1日より全国にて販売開始いたしました。

また、「サトウの切り餅/まる餅 乳酸菌プラス」において、切り餅では初となる人気アニメ「SPY×FAMILY」とコラボした特別企画商品「サトウの切り餅乳酸菌プラスSPY×FAMILYデザインパッケージ全2種」を発売(2022年11月21日)し、新たな顧客層の獲得に取り組んでまいりました。

さらに、女優の芦田愛菜さんが当社グループのみが個包装に使用している酸素を吸収する「ながモチフィルム」の特徴(鮮度保持剤なしでつきたての美味しさを24か月保持)を紹介するテレビCMや切り餅「いっぼん」のスティック形状を活かした様々な召し上がり方を消費者の皆様様に提案するテレビCMを継続的に放映することで、当社包装餅商品のブランド認知の向上に努めてまいりました。加えて、餅商品の喫食機会向上と新たな消費者層の獲得を目的として、人気アニメクリエイターとタイアップした動画制作等も行っておりまいりました。

年末商材である鏡餅については、市場全体でダウンサイジング化傾向が進んでいることから、「どこでも簡単に飾れる手頃なサイズの鏡餅!」をコンセプトとし、お客様の様々なニーズにお応えするため、化粧箱入りの「サッと鏡餅」と、置き場所を選ばない「小飾り」タイプの品揃え拡充を進めてまいりました。

こうした商品コンセプトをベースに、「サッと鏡餅」シリーズの特徴はそのままに鏡餅本体に干支イラストをデザインした「サトウのサッと鏡餅まる餅入り66g干支イラスト」及びサンリオキャラクター大賞で人気ランキング3年連続1位に輝いた「シナモロール」をデザインしたサトウの「福餅入り鏡餅小飾りシナモロール」を新発売(2022年11月1日)いたしました。さらに、幅広い層から支持を得ているアニメ「鬼滅の刃」のキャラクターを小飾りシリーズに加え、本年は化粧箱入りの「サッと鏡餅シリーズ」にも追加(2022年11月1日発売)し、最需要期である年末の販売増加に向けての取り組みを実施してまいりました。

また、流通における取り組みとして、鏡餅を店舗で陳列する際の開封作業の軽減を目的として開発した段ボールを開封するとそのまま商品の陳列ができる「簡単!楽ちん段ボール」を引続き採用し、取扱店の拡大に努めてまいりました。

包装餅の販売は、昨今の新型コロナウイルス禍を背景とした内食需要の拡大も落ち着きを見せ始めたことで、包装餅市場全体は前年を下回る状況で推移しておりますが、当社餅商品に関しては通年需要の喚起や、「ながモチフィルム」に代表される当社独自の強みを活かした販売提案などを積極的に行うことで、販促機会が例年以上に増加し、堅調に推移しております。鏡餅のダウンサイジング化がより一層進んだことにより、販売単価は減少したものの、餅商品全体の販売量の増加により、売上高は前年同水準で推移いたしました。その結果、包装餅製品の売上高は144億15百万円(前年同期比1.2%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は216億28百万円となり、前連結会計年度末に比べ54億32百万円増加いたしました。これは主に原材料及び貯蔵品が13億96百万円、仕掛品が4億10百万円、流動資産のその他が1億3百万円減少したものの、売掛金が66億46百万円、現金及び預金が4億92百万円、商品及び製品が2億10百万円増加したことによるものであります。減少した流動資産のその他の主なものは未収消費税等であります。

固定資産は193億48百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億1百万円減少いたしました。これは主に投資有価証券の新規取得及び保有する投資有価証券の時価総額の増加により、投資有価証券が3億13百万円、投資その他の資産のその他が2億49百万円増加したものの、減価償却の進行に伴い有形固定資産が12億49百万円、無形固定資産が95百万円減少したことによるものであります。増加した投資その他の資産のその他の主なものは繰延税金資産であります。

この結果、総資産は409億76百万円となり、前連結会計年度末に比べ46億31百万円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は149億96百万円となり、前連結会計年度末に比べ28億25百万円増加いたしました。これは主に買掛金が2億14百万円減少したものの、運転資金としての短期借入金が20億50百万円、未払金が5億42百万円、流動負債のその他が3億98百万円増加したことによるものであります。増加した流動負債のその他の主なものは未払消費税等であります。

固定負債は79億37百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億38百万円増加いたしました。これは主に長期借入金の増加によるものであります。

この結果、負債合計は229億34百万円となり、前連結会計年度末に比べ30億63百万円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における株主資本は175億33百万円となり、前連結会計年度末に比べ15億5百万円増加いたしました。増加要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益17億57百万円であり、減少要因は、剰余金の配当2億52百万円であります。

その他の包括利益累計額は5億8百万円となり、前連結会計年度末に比べ62百万円増加いたしました。

この結果、純資産合計は180億42百万円となり、前連結会計年度末に比べ15億67百万円増加いたしました。

なお、自己資本比率は44.0%(前連結会計年度末は45.3%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年4月期の通期(2022年5月1日～2023年4月30日)の業績予想につきましては、2023年4月期第1四半期決算短信(2022年9月7日公表)において公表いたしました通期の業績予想から変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,665,818	2,158,362
売掛金	8,381,837	15,028,054
商品及び製品	1,862,194	2,072,610
仕掛品	579,128	168,180
原材料及び貯蔵品	3,521,282	2,124,563
その他	192,880	89,712
貸倒引当金	△7,720	△13,400
流動資産合計	16,195,422	21,628,084
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,581,764	5,334,818
機械装置及び運搬具(純額)	6,374,167	5,442,743
土地	2,343,620	2,322,208
その他(純額)	622,199	572,506
有形固定資産合計	14,921,751	13,672,277
無形固定資産	893,178	797,627
投資その他の資産		
投資有価証券	1,306,289	1,620,111
投資不動産(純額)	2,382,526	2,364,300
その他	674,457	923,624
貸倒引当金	△28,130	△29,160
投資その他の資産合計	4,335,142	4,878,876
固定資産合計	20,150,072	19,348,781
資産合計	36,345,494	40,976,865

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2022年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	829,338	615,018
短期借入金	3,100,000	5,150,000
1年内返済予定の長期借入金	2,611,878	2,676,694
未払金	3,982,159	4,524,701
未払法人税等	598,000	544,834
引当金	270,203	307,680
その他	779,463	1,177,550
流動負債合計	12,171,043	14,996,478
固定負債		
長期借入金	6,463,454	6,786,541
引当金	248,094	180,623
退職給付に係る負債	835,854	837,011
その他	152,007	133,628
固定負債合計	7,699,410	7,937,803
負債合計	19,870,453	22,934,282
純資産の部		
株主資本		
資本金	543,775	543,775
資本剰余金	506,000	506,000
利益剰余金	15,016,367	16,521,677
自己株式	△37,619	△37,745
株主資本合計	16,028,522	17,533,707
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	504,358	541,702
退職給付に係る調整累計額	△57,838	△32,825
その他の包括利益累計額合計	446,519	508,876
純資産合計	16,475,041	18,042,583
負債純資産合計	36,345,494	40,976,865

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年5月1日 至2022年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年5月1日 至2023年1月31日)
売上高	30,789,479	31,958,566
売上原価	22,354,048	23,666,469
売上総利益	8,435,430	8,292,096
販売費及び一般管理費	5,624,357	6,038,210
営業利益	2,811,073	2,253,885
営業外収益		
受取利息	6	11
受取配当金	19,906	41,467
受取賃貸料	144,427	144,777
副産物収入	98,456	126,466
その他	87,020	92,534
営業外収益合計	349,817	405,257
営業外費用		
支払利息	26,797	27,937
賃貸費用	68,648	68,574
固定資産除却損	8,699	2,465
その他	14,630	19,106
営業外費用合計	118,775	118,084
経常利益	3,042,115	2,541,059
特別利益		
固定資産売却益	—	565
特別利益合計	—	565
特別損失		
固定資産売却損	—	8,054
特別損失合計	—	8,054
税金等調整前四半期純利益	3,042,115	2,533,570
法人税、住民税及び事業税	763,826	1,008,688
法人税等調整額	190,920	△232,619
法人税等合計	954,747	776,069
四半期純利益	2,087,368	1,757,501
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,087,368	1,757,501

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年5月1日 至 2022年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2023年1月31日)
四半期純利益	2,087,368	1,757,501
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△167,373	37,344
退職給付に係る調整額	24,660	24,894
その他の包括利益合計	△142,713	62,238
四半期包括利益	1,944,654	1,819,740
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,944,654	1,819,740
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

3. その他

(1) 役員の変動

本日、別途適時開示しております「組織変更及び人事異動に関するお知らせ」をご覧ください。